

短 報

看護実習室整備に向けた取り組み

—2018年度実習室調査結果報告—

佐居 由美¹⁾ 中溝 倫子¹⁾ 高妻 美樹¹⁾ 中田 諭¹⁾ 沢口 恵¹⁾
 桑原 良子¹⁾ 馬場 香里¹⁾ 森島久美子²⁾ 大原まどか²⁾ 藤田 俊介³⁾

Improving Nursing Practice among Undergraduate Nursing Students
 at the Nursing Learning Lab
 —Results of the 2018 Nursing Learning Lab Survey—

Yumi SAKYO¹⁾ Rinko NAKAMIZO¹⁾ Miki KOUZUMA¹⁾ Satoshi NAKATA¹⁾
 Megumi SAWAGUCHI¹⁾ Yoshiko KUWABARA¹⁾ Kaori BABA¹⁾
 Kumiko MORISHIMA²⁾ Madoka OHARA²⁾ Syunsuke FUJITA³⁾

〔Abstract〕

The Nursing Learning Lab at the College of Nursing, St. Luke's International University, conducts an annual questionnaire survey among undergraduate nurses with the aim of improving the nursing practice room environment in collaboration with the Student Laboratory Committee. The 2018 survey was conducted from May to June, and 312 responses were obtained (collection rate 70.7%). The results indicated that the physical environment had improved from previous years. For instance, 5% of participants reported "We are short of goods" (vs. 33% in 2015), 73% reported "I was able to use the training room when I wanted to" (vs. 54% in 2017), and 65% reported that there were enough beds during practice (vs. 48% in 2017). Furthermore, participants' satisfaction with the use of the practice room had an average score of 8.13 (out of 10), which was higher than the 7.36 found in 2017. On the other hand, 15.1% of participants (vs. 16.5% in 2017) reported that user manners were "not good," citing reasons such as "insufficient tidying up." Regarding the human environment, 81% of students reported that "the support of the laboratory lecturer was adequate." In the future, it is necessary to tackle the problems identified by the survey to further improve the learning environment, and thereby enhance nursing students' ability to practice nursing.

〔Key words〕 nursing learning lab, nursing students, user manner, laboratory lecturer

〔要 旨〕

聖路加国際大学実習室小委員会は、学生実習室委員会と共同で、看護実習室の環境改善を目的に、看護学部生を対象にアンケート調査を行っている。2018年度は5～6月に調査を実施し、312件の回答を得た（回収率70.7%）。結果は、「物品不足：5%（2015年度33%）」、「使用したいときに使用できた：73%（昨年54%）」、「ベッドは足りていた：65%（昨年48%）」など、前年度より物的環境が改善されていた。「実習室満足度（10段階）」は、平均値8.13（±1.47）であり、前年の7.36（±1.79）より高値であった。一方

1) 聖路加国際大学大学院看護学研究科・St.Luke's International University, Graduate School of Nursing Science
 2) 聖路加国際大学総務部・St.Luke's International University, General Affairs and Administration
 3) 聖路加国際大学大学事務部・St.Luke's International University, Academic and Student Administration

で、利用者マナーは、約15.1%（前年16.5%）の学生が「よくない」と回答し、その理由は「片付けが不十分」という意見が多数みられた。人的環境については、81%の学生が「実習室助手の支援が行き届いていた」と回答した（前年83%）。今回明らかになった課題に取り組み、看護学生の看護実践能力向上に資するよう、今後も学習環境を整備していく必要がある。

〔キーワード〕 看護実習室、看護学生、利用者マナー、実習室助手

I. はじめに

聖路加国際大学看護学部実習室小委員会では、学部学生が自主的に学習する場として、実習室をよりよく改善することを目的に、毎年学生を対象にアンケート調査を行っている。本調査は2014年度より開始し、学生の意見をより反映させるため、学生実習室委員会と合同で実施している。これまでも、アンケート結果を踏まえて、随時、環境改善を行ってきた¹⁻⁴⁾。

本稿では、2018年度調査結果を実習室小委員会の取り組みと合わせて報告する。

II. 実習室アンケート調査

1. 実施方法

調査は、学部生441名を対象に、2018年5～6月に、ウェブおよびアンケート用紙にて行った。調査にあたっては、学生課に調査実施届を提出し承認を得た。

調査内容は、実習室を自己学習にて利用する場合について、「実習室利用の科目、頻度」「実習室利用に関しての物品、ベッドの不足の有無」「実習室支援員の支援に関して」「実習室の環境の満足度」「能動的学習としての適切性」などを調査した。今年度は、あらたに、白楊祭企画についての質問を追加した。

〔倫理的配慮〕アンケート依頼画面（アンケート用紙の冒頭）に、回答内容は個人が特定されないこと。結果は集計して公表することを明記した。また、学生への調査依頼は、学生実習室委員が実施し教員依頼による強制力を排除した。

2. 結果

1) 回答者の概要

312件（回答率70.7%）の回答を得た。回答者は、1年生90名（28.8%）、2年生69名（22.1%）、3年生33名（10.6%）、4年生（学士20回生を含む）67名（21.5%）、3年次編入3年生24名（7.7%）、3年次編入4年生29名（9.3%）であった。

2) 使用科目

実習室で自己学習を行った科目は、「基礎看護技術論（学部2年生）160件」、「ヘルスアセスメント方法論（学

部1年生）114件」、「コミュニケーション実習（1年生）104件」、「小児看護学Ⅱ（学部3年生）49件」、「看護展開論実習（2年）46件」、「統合科目①（3年次編入生）29件」、「統合科目②（3年次編入生）27件」、「看護学実習（3年、成人慢性）22件」、「看護学実習（3年、老年）15件」、「成人看護学慢性期実践方法10件」、「ゼミナール／総合実習（4年）6件」等であり、学部1年生および2年生の科目の使用頻度が高かった。

3) 実習室使用頻度

実習室の利用頻度は、「2～3日に1度：108件（35.0%）」「毎日：52件（16.8%）」「1週間に1度：50件（16.2%）」の順に多く、回答者の3人に1人は週に2～3回、自己学習にて実習室を利用していた。

4) 実習室を利用する時間帯

実習室を利用する時間帯は、「授業の空き時間212件（36.1%）」「放課後184件（31.3%）」「授業前の時間65件（11.1%）」「土曜日73件（12.4%）」であり、授業前の朝の早い時間や土曜日より、授業と授業の間の空き時間に多くの学生が利用していた。

5) 実習室物品・ベッドについて

実習室の物品について、「物品が不足しているか」との設問には、「あまり思わない、思わない」との回答が約5%であった。2017年は7%であったため、やや減少し、大部分の学生は実習室の物品が不足していると感じていないという結果であった。不足している物品としては、「教材モデル6件」「リネン類2件」「陰部洗浄用ボトル1件」が挙げられていた。

実習室のベッドが「不足していた」と回答した学生は25%であり、昨年度の47%から大幅に減少した。昨年度



写真1 アーツルーム3（ベッド3床）

表1 実習室助手支援が「行き届いている」理由 (157件)

1. 質問に答えてくれる: 40件
2. いつでも質問できる／質問しやすい: 36件
3. 対応が親切で丁寧: 34件
4. 積極的に声かけしてくれる: 22件
5. わからないときに教えてくれる: 11件
6. 的確なアドバイスがもらえる: 10件
7. わかりやすく教えてくれる: 4件

表2 実習室助手への要望 (91件)

1. 今のままでよい／現状維持: 41件
2. 技術指導の確認をしてほしい: 22件
3. 技術指導以外のサポート (経験談など): 6件
4. 質問したいときのみ対応してほしい: 6件
5. 実習室助手を増員してほしい: 4件
6. 利用時間を延長してほしい: 3件
7. 講座などを開設してほしい: 2件
8. その他: 7件

の調査結果を踏まえ、6階に実習室が2部屋 [アーツルーム3: ベッド3床 (写真1), アーツルーム4: ベッド5床] 増設され、ベッドが8床増えた効果だと考えられる。

6) 実習室使用について

「実習室を使用したい時に使用できたか」という設問には、73%の学生が、「そう思う・ややそう思う」と回答した。昨年度の結果は54%であったため、結果の改善がみられ、実習室が2部屋増えたことが結果に反映されたと思われる。

7) 実習室助手支援体制について

専任の実習室助手による支援について、「行き届いていた (そう思う・ややそう思う)」と回答した学生は、81%であった (2017年度83%)。その理由としては、「いつでも質問できる」という回答が多くを占めていた (表1)。「(あまり思わない, 思わない)」は5%であり、その理由として、「在室時間が合わない」、「人手が不足」という回答がそれぞれ4件あった。実習室助手への要望としては、「現状維持」が多くをしめ、「支援員の増員」という意見もあった (表2)。

8) 利用する学生のマナーについて

利用する学生のマナーについて、「マナーがよくなかった」と回答した学生の割合は、15.1%であった。昨年度の結果は16.5%であり、掲示物や授業の中でマナー向上についての対策を行ってきたが、昨年とほぼ同じ結果であった。

「マナーがよくなかった」の回答者を学年別にみると、多い順に、2年生 23人 (51.1%)、4年生11人 (24.4%)、3年生 5人 (11.1%)、3次編入3年生 4件 (8.9%)、3次編入生4年生 2件 (4.5%)、1年生 0人であった。2

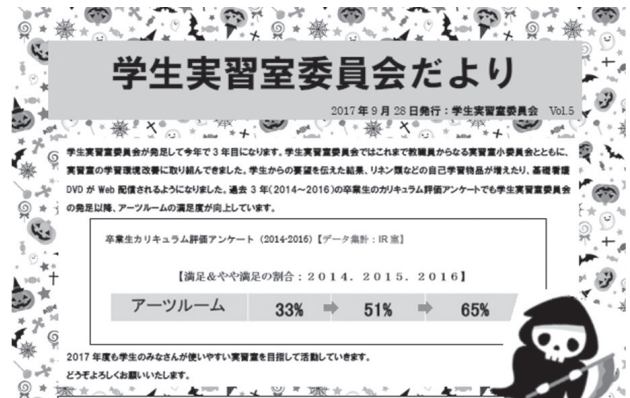


写真2 学生実習室委員会だより

年生が半数近くを占めており、2年生98人の約4人に1人は、実習室の利用マナーが悪いと回答していた。

マナーについての自由記載は51件あり、「利用後の不十分な片付けのため (28件)」「場所取り・独占問題のため (5件)」「私語が多かったため (4件)」「SNSにアップしていたため (2件)」「飲食をしている人がいたため (2件)」などであり、「不十分な後片付け」が大部分を占めていた。

9) 実習室使用上の満足度について

実習室利用の満足度 (10段階評価) は、平均8.1 (±1.5) であった。これまでの調査結果では、2015年度6.9、2016年度7.4、2017年度7.4であり、利用者は現状の実習室には概ね満足していると考えられる。

10) 能動的学修環境としての実習室

実習室が「能動的学修に適しているか」を10段階評価で問うたところ、平均8.3 (±1.5) という結果であった。2017年度は7.8 (±1.8) であったため、微増している。度数分布でみると、6段階以上と答えた学生が、2017年度では181名 (90.5%) であったが、2018年度では、253名 (94.4%) という結果であり、多くの学生が実習室は能動的学修に適していると回答していた。

その理由は、「先生やLA (ラーニングアシスタント) さんの支援があったため (20件)」「使いやすかったため (13件)」「環境が良かったため (12件)」「物品が揃っていたため (6件)」等であった。今年度より実習室での自己学習支援のために導入した、学部3年生や4年生によるラーニング・アシスタントについての記載もあった。

11) 白楊祭企画として実習室委員会の取り組み

学生実習室委員会の活動への理解を求めるため2017年度、聖路加国際大学文化祭 (白楊祭) にて、実習室委員会企画を行った。本展示は学生実習室委員会が主催し、教員による実習室委員会が後援した。内容は、実習室委員会の活動紹介や学生実習室委員会だより (写真2) を掲示し、看護教材モデルを展示した。また、来場者の関心を引くよう、実習室クイズ (ルカあんぱんの景品つき) も行った (写真3)。



写真3 白楊祭企画～実習室教材の展示～

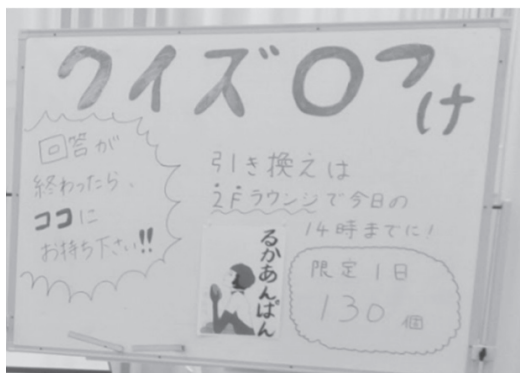


写真4 白楊祭企画～実習室クイズの実施～

今年度の調査は、本企画について質問した結果、「白楊祭に参加した58件（18.6%）」「参加しなかった202件（64.7%）」「次年度は参加しようと思う22件（7.1%）」という結果であった。「参加した」という回答者を学年別にみると、1年生9件（16%）、2年生25件（43%）、3年生12件（21%）、4年生8件（14%）、3次編入生3年生0件（0%）、3次編入生4年生4件（7%）であった。昨年度1年生であった2年生が約半数を占めているが、本学入学前であった1年生も9人が参加していた。

12) 実習室についての自由な意見

実習室についての自由な意見として、6階実習室に設置している物品が不足している、快適さや清潔さに満足しているといった内容が大部分を占めていた（表3）。

Ⅲ. 今後に向けて

今年度の調査は、概ね、昨年度より改善された結果が示された。特に、昨年度の調査結果を踏まえ、6階実習室の増設とベッド8台を追加購入したことで、利用したいときに利用できる環境が整った。実習室満足度も10段階中8.3という結果であり、ベッドや場が整備された他に、専任の実習室助手や3年生と4年生のラーニング・アシスタントなどの人的サポートが充実したことも、その理由として考えられる。

表3 実習室に関連した自由記述内容（70件）

1. 実習室環境に満足している：21件
 - 1) 満足している・快適に利用している：11件
 - 2) 6階のアーツルーム（実習室）が良い：6件
 - 3) いつもきれいな：4件
2. 物品が不足している：23件
 - 1) 6階の実習室の物品が不足している：17件
 - 2) 地下の物品が不足している：6件
3. 先約・予約が入っていて使用できない：10件
4. 利用したい時間に利用できない：4件
5. その他：12件
 - ・実習室助手にいつもいてほしい
 - ・他にも場所がほしい など

今後は、今年度増設された6階実習室の自己学習場所としての運用方法を検討し、学生にとってより学修しやすい環境として、実習室全体を整備していきたいと考えている。また、利用者マナーは、これまでも課題として挙げられているが、引き続き検討が必要であることが明らかになった。過去の調査においても³⁾、学生の能動的学習を阻害するものとして、使用後の他者の整理整頓不足が挙げられている。利用者がマナーを守ることが学生の主体的な学びを促進するため、利用者のマナー向上への対策が、引き続き必要である。

看護の初学者である看護学生が、実習において患者に安全に看護技術を実践するために、必要なスキルを習得するには、個人の特性に合わせた能動的学修が必須である。今後も、学生実習室委員会と協働しながら、学部生の能動的学習に適した環境整備に努めたいと考えている。

謝 辞

実習室をよりよくするために協働している学生実習室委員会のメンバーの皆さん、ありがとうございました。アンケート調査での学生への協力依頼、回収等のみならず、白楊祭での企画実施など実習室をよりよくするための活動に感謝します。また、「ベッドおよび学習場の不足」という昨年度の調査結果に、迅速に対応いただいた学部長堀内成子先生、教務課の皆様はじめ、すべての関係者の皆様にも御礼申し上げます。ありがとうございました。

引用文献

- 1) 佐居由美, 植田尚子, 眞鍋裕紀子ほか. 聖路加国際大学看護学部実習室の現状と課題. 聖路加国際大学紀要. 2015; 1: 114-7.
- 2) 佐居由美, 中溝倫子, 宇都宮明美ほか. 学生にとって学びやすい実習室を目指した取り組み ―学生実習室委員会との連携および実習室助手の役割に焦点をあて

- て一．聖路加国際大学紀要．2016；2：78-82.
- 3）中溝倫子，佐居由美，宇都宮明美ほか．看護学部生の能動的学修を推進する実習室環境の整備．聖路加国際大学紀要．2017；3：73-8.
- 4）佐居由美，中溝倫子，宇都宮明美ほか．学部生の能動的学習を促す看護実習室の整備 —2017年度実習室調査結果報告—．聖路加国際大学紀要．2018；4：128-31.